

この度の台風被害にて被災された町民の皆様にお見舞い申し上げます。心も体も疲弊していることと思います。どうかご自愛下さい。

今回の被災で色々なことを感じ、考えました。その中でこの DAPPE では、被災して気付いた自分の写真についてお話ししたいと思います。

被災するまで、ほぼ毎日写真を撮っていました。別に無理して撮っていたのではなく、撮りたいと思った時にだけ、撮っていました。

ですが9日以降、全く撮りたいと思えなくなりまして。災害記録用として頼まれて撮った写真はありますが、数日間、撮りたくて撮った写真はありません。

「自分の写真にはジャーナリズム精神はない」と思いました。それよりも今自分にできることは他にあると思います、家屋の補修作業や瓦

礫の撤去、支援物資の届きにくい地域への運搬などの活動をしていました。ありがたいことに神奈川から友達は何人も駆けつけて手伝ってくれました。

慌ただしく毎日を過ごしている、しばらくして、体と頭が疲れていることに気がつきました。その日の夕方、やっと写真が撮れました。考えることに疲れ、感情が表に出てきて、素直に、撮りたくて写真を撮ることができたんです。その気持ちを言葉で伝えるのはすごく難しいことで、今でも説明はできません。ですが、知り合いの写真家に「振り返れば、その葛藤は肥やしになる」と言われました。これからも自分はいくさんの景色を見て、悩みながら、振り回されながら、感じながら写真を撮り続けたいと、そう思います。



Dappe

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

10



Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊
住所 AKARI(地域おこし協力隊拠点)
〒299-1902
千葉県安房郡鋸南町保田66-1
執筆 黒澤徹 清水多佳子 室井翼
編集 室井翼

《9月号について》
台風15号の影響により配布できなかったので、役場、中央公民館、道の駅保田小学校に置かせてもらっています。お手数ですが、ご覧になりたい方はそちらにお願いします。ご自由にお持ち下さい。よろしくお願います。



野生動物も台風の被害者、

黒澤 徹

これまでのけもの道は寸断されてしまいました。

こんにちは！ 地域おこし協力隊、有害鳥獣対策担当の黒澤です。

台風による被害対応であったという間に過ぎた1ヶ月でした。これからも私なりに復興のための活動を続けてまいります。

さて、有害鳥獣対策担当として災害時に思ったことを今回は書きます。

まず、被災により、私の有害鳥獣捕獲活動は一時的に止まりました。それでも、数日後には狩場（箱わなやくくりわなの設置された場所）へ見回りに出かけました。そこで目にしたのは、すっかり変わってしまった地形……。倒木が折り重なり、従来のいわゆる「けもの道」（野生獣が行き来すること

できた踏跡）がすっかり利用できない状況になっていました。一目で、「今後、この道にけものは戻ってこないな」と直感。これまで見極めてきたけもの痕跡が、すっかり変化してしまいました。

少しずつ捕獲報告も

これにより、それまでに設置していたわなは原則、全て回収。以後、再び被害を及ぼす加害獣が活動を始め、痕跡が再び現れたところで、再度わなを設置することになります。当たり前ですが、イノシシやシカなどの野生動物も人間同様、台風の被害者です。普段、通いなれたけもの道は寸断

され、餌場も失い、新たな生活環境に順応しないといけません。台風直後は野生動物もおとなしくしていたのでしようか、しばらく姿を見ませんでした。しかし、数日経った頃には早速、柵が壊れ、防除体制が綻んだ箇所から圃場へ侵入した足跡や掘り返しなどの痕跡が目立ち始めました。町内の捕獲従事者からも、少しずつ捕獲報告が上がってきています。



被災後の小保田・日向畑のドローン画像。
(撮影 黒澤徹)

災害で考えた「情報発信」の役割

清水多佳子

今後の活動は、復興の様子を記録していくこと。

台風15号が去り、町が甚大な被害を受けた直後、私が地域おこし協力隊として活動していたこと……。それは、世の中の人に鋸南町の現状を知ってもらうため、ネット上で被災状況を発信していくことでした。

町の写真と状況を私がフェイスブックに投稿したのは10日。あつという間に、その記事は40人以上にシェアされ拡散し、「マスコミにどうして取り上げられないの？」というコメントをたくさんいただきました。

同時期に、かろうじてネットにつながっている鋸南町の住民がフェイスブックやツイッターに被災の情報をアップしていました。今回、マスメディアに鋸南町が大

きく取り上げられた理由として、ネット上でみんなが「助けて！」と叫んだことが大きいと思います。

二拠点居住者ほど、情報が得られない

今回、私が少し感じたのは、「二拠点居住」をしている人ほど、被災時、支援からこぼれ落ちやすい傾向にあるということです。鋸南町には、主に東京で仕事をし、時々、町に来るといいう方がけっこういらっしゃいます。ふだん町に住んでいないので、知り合いも少ない状況で、「誰に助けを求めたいのか分からない、どこに行けば情報を得られ

るのか分からない」という相談を直接、いただきました。こういう人たちの支援のありかたはどうあるべきか、迅速に情報を届けるにはどうしたらいいのかも今後、考えていかねばならないと思います。

さて、私のメインの仕事は、観光に関する情報発信です。これからの活動は、「町が復興していく様子を写真と文章で記録していくこと」であると感じています。みなさま、これからもご支援のほど、よろしくお願いいたします。

